

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

多可町長

市町村名 (市町村コード)	兵庫県多可郡多可町 (283657)	
地域名 (地域内農業集落名)	加美区 (山野部集落)	
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年12月20日 (第2回)	

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

当地区は多くの農地がほ場整備された平坦な農地が大部分を占めるが一部山際の農地ある。農家戸数28戸、平均年齢は60代と比較的若い、将来的に農地を貸したい、規模を縮小したい農家が約半数近くあり、今後さらに離農者の増加が懸念される。現在は集落内の認定農業者や各農家が主に水稻を作付し、農会が中心になって黒大豆とのブロックローテーションを実施し農地の活用を図っている。そのほか有機農業に取り組み少量多品目栽培をしている農家や、近隣集落から認定農業者3名(うち法人2社)が耕作し、酒造好適米や麦の栽培を行っている。

【基礎データ】

- ・農家軒数 28軒 うち認定農業者1名、新規就農者1名
- ・主な作物 水稻(うるち米、酒造好適米)、黒大豆、麦、一般野菜

(2) 地域における農業の将来の在り方

酒造好適米やうるち米と黒大豆とのブロックローテーションを継続し農地の活用と農家所得の安定を図る。農地利用は集落内の認定農業者が担っていくほか、近隣集落の認定農業者とも調整しながら農地集積を進めていく。また担い手等が借り受けできない農地については、農会が作業受託を行うなど農地の受け皿となり、個々の農業者と連携し一体的に農地を守っていく。そのほか比較的若い世代の農業者も多数おり、地域の後継者として育成するほか、スマート農業機械の活用など省力化を図り、兼業農家でも農業を継続できる仕組みの検討を続ける。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	28.0 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	28.0 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	0.0 ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地及びその周辺の農地を農業上の利用が行われる区域とする。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
・現状、集約化は困難な状況だが、理解を得ながら協力し集積、集約化を進める。
(2)農地中間管理機構の活用方針
・可能な限り農地中間管理機構を活用し、農業を担う者を中心に農地利用を進める。
(3)基盤整備事業への取組方針
・多面的機能支払を活用して、適宜用水路等の修繕を実施していく。また耕作しやすいようにほ場整備や区画拡大を検討していきたい。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
・町、JAと情報共有するほか、移住者など集落外からの耕作者など多様な経営体の確保に努める。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業体等への農作業委託の活用方針

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input checked="" type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④畑地化・輸出等	<input type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨耕畜連携等	<input type="checkbox"/> ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

- ①⑦多面的機能支払交付金を活用して獣害防止柵や農業用施設の維持管理を継続する。
 ②有機JAS認証の取得を継続し環境に配慮した有機栽培を継続する。